

# 双葉町 橋梁長寿命化修繕計画



森合橋

令和6年3月

福島県双葉郡双葉町

— 目 次 —

I. 様式1-1

※ ( ) は「道路メンテナンス事業補助制度」  
における補助要件

1. 長寿命化修繕計画の目的	1	—国土交通省— インフラ長寿命化 基本計画における記載事項
2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁	3	1. 対象施設
3. 健全度の把握及び日常的な 維持管理に関する基本方針 (・老朽化対策における基本方針) (・新技術等の活用方針)	7	2. 計画期間
4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替え に係る費用の縮減に関する基本的な方針 (・費用の縮減に関する具体的な方針)	9	3. 対策の優先順位の考え方 4. 個別施設の状態等
5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期 及び修繕内容・時期又は架替え時期 (・構造物の諸元・直近の点検結果及び次回点検年度) (・対策内容・対策の着手、完了予定年度) (・対策に係る全体概算事業費)	21	5. 対策内容と実施時期 6. 対策費用
6. 長寿命化修繕計画による効果	21	
7. 計画策定担当部署及び意見聴取した 学識経験者等の専門知識を有する者	22	

II. 様式1-2

対象橋梁ごとの概ねの次回点検年度  
及び対策内容・着手時期又は架替え時期

III. 優先順位一覧表

# 1. 長寿命化修繕計画の目的

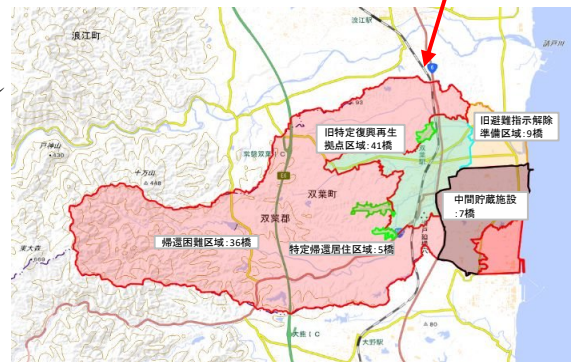
## 1) 双葉町の現状

福島県浜通りのほぼ中央に位置する双葉町は、人口5,411人（2024年2月末現在）面積51.42平方kmの町で、東に太平洋、西に阿武隈山系を望み、気候は比較的温暖で冬期間でも積雪量は少なく、自然環境と気候に恵まれた町です。

町は2011年3月の福島第一原発事故により、全町民が県内外で避難生活を送っていましたが、2020年3月に町北東部の避難指示解除準備区域及びJR双葉駅周辺等の一部区域、2022年8月には帰還困難区域の一部である特定復興再生拠点区域の避難指示が解除され、約11年ぶりに役場機能と共に、町民が町に帰還を果たしています。

町内には162.0kmの町道が整備され、国道6号・288号及び3本の県道と共に生活道路としてネットワークを構築しています。町道に架かる橋梁は98橋ありますが、国・県道及び常磐自動車道を跨ぐ橋梁を4橋、JR常磐線を跨ぐ橋梁を2橋有している外、管理橋梁全体の約4割が建設後50年を経過している高齢化橋梁であること、区域により橋の利用状況が異なることが特徴となっています。また、東日本大震災を含む一連の地震や、豪雨等による度重なる災害の影響を受けた橋梁が未だ点在していることが特徴となっています。

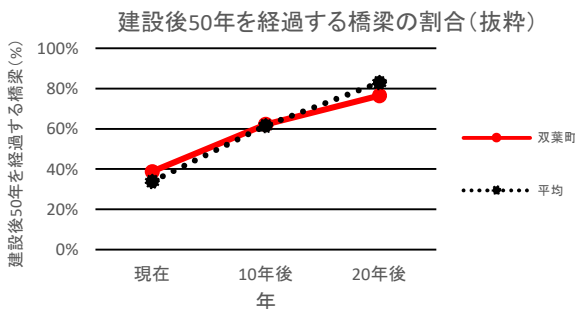
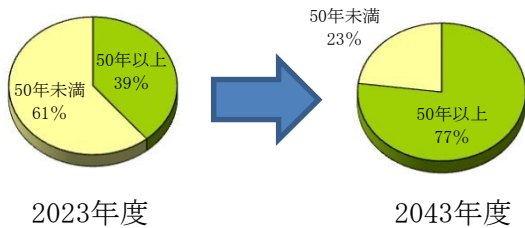
福島県内市町村位置図



## 2) 背景

双葉町の管理する橋梁98橋の中で、2023年時点で建設後50年以上を経過する橋梁は全体の約39%ですが、10年後の2033年には62%、20年後の2043年には77%に増加します。

これらの高齢化を迎える橋梁群に対して、従来の対症療法型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕・架け替えに要する費用が増大となることが懸念されます。

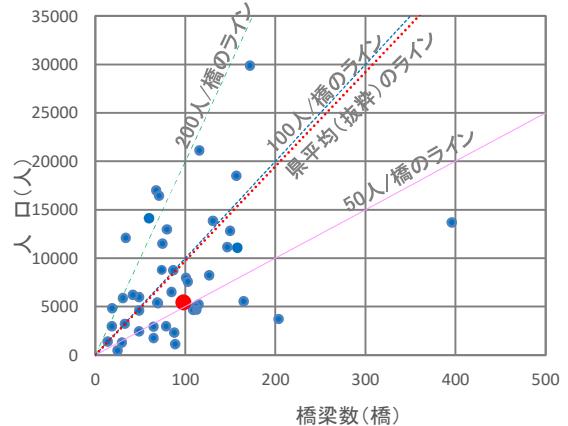


近隣町村との比較

町村名	面積 (km <sup>2</sup> )	人口 (人)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	橋梁数 (橋)	橋梁の密度 (橋/km <sup>2</sup> )	一橋当りの人口 (人/橋)
双葉町	51.42	5411	105.2	98	1.91	55.2
大熊町	78.71	9944	126.3	61	0.77	163.0
富岡町	68.39	11497	168.1	75	1.10	153.3
楢葉町	103.64	6469	62.4	85	0.82	76.1

人口は2023年現在

福島県内市町村(抜粋)の人口と橋梁数の関係

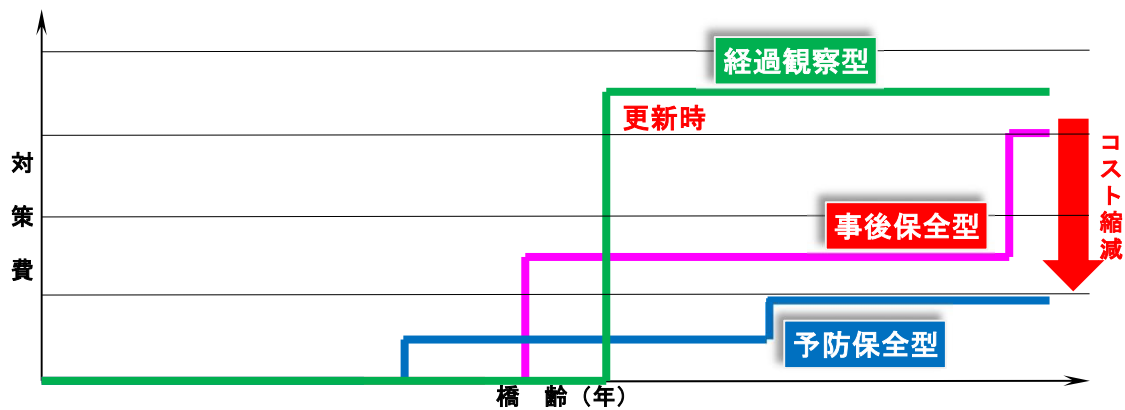
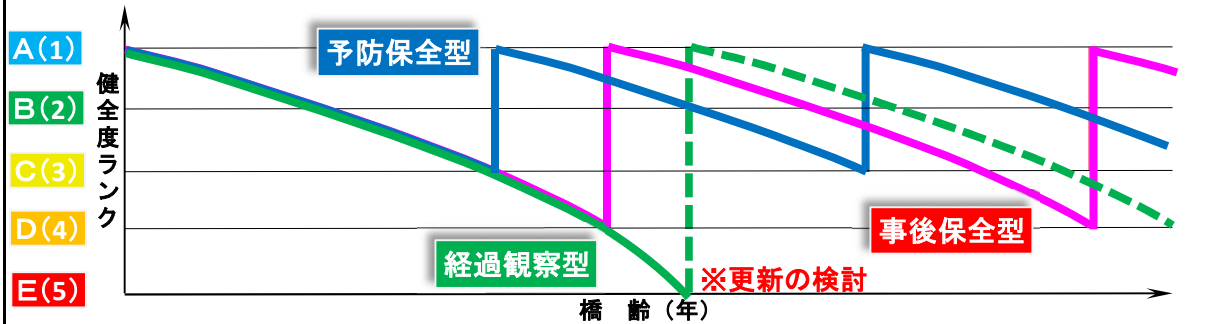


### 3) 目的

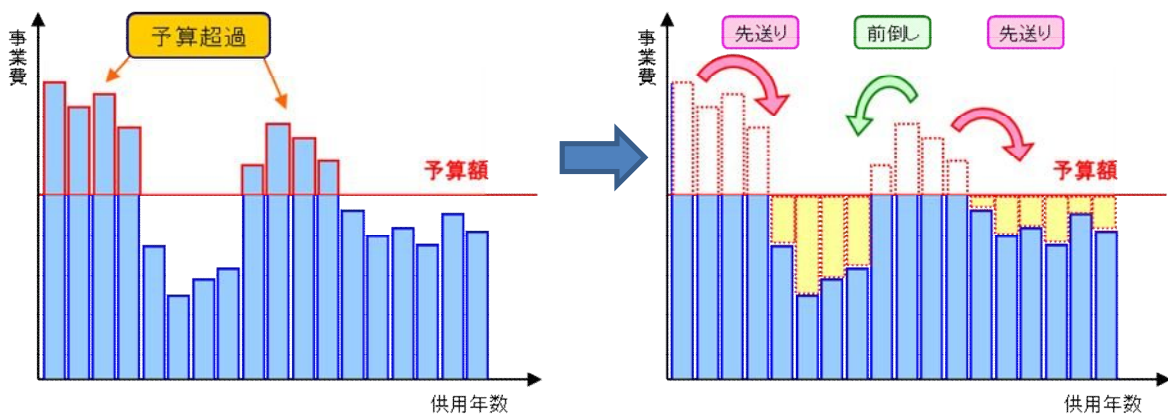
このような背景から、より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくための取り組みが不可欠となります。

将来にわたり橋梁を保全・維持するためには、費用のかかる架替えが一時期に集中しないように長寿命化修繕計画を策定して、財政負担を低減・平準化する必要があり、コスト縮減のためには、従来の事後保全型（対症療法型）から、“損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う”予防保全型へ転換を図り、橋梁の寿命を延ばす必要があります。

そこで双葉町では、将来的な財政負担の低減および道路交通安全の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定します。



対策シナリオのイメージ

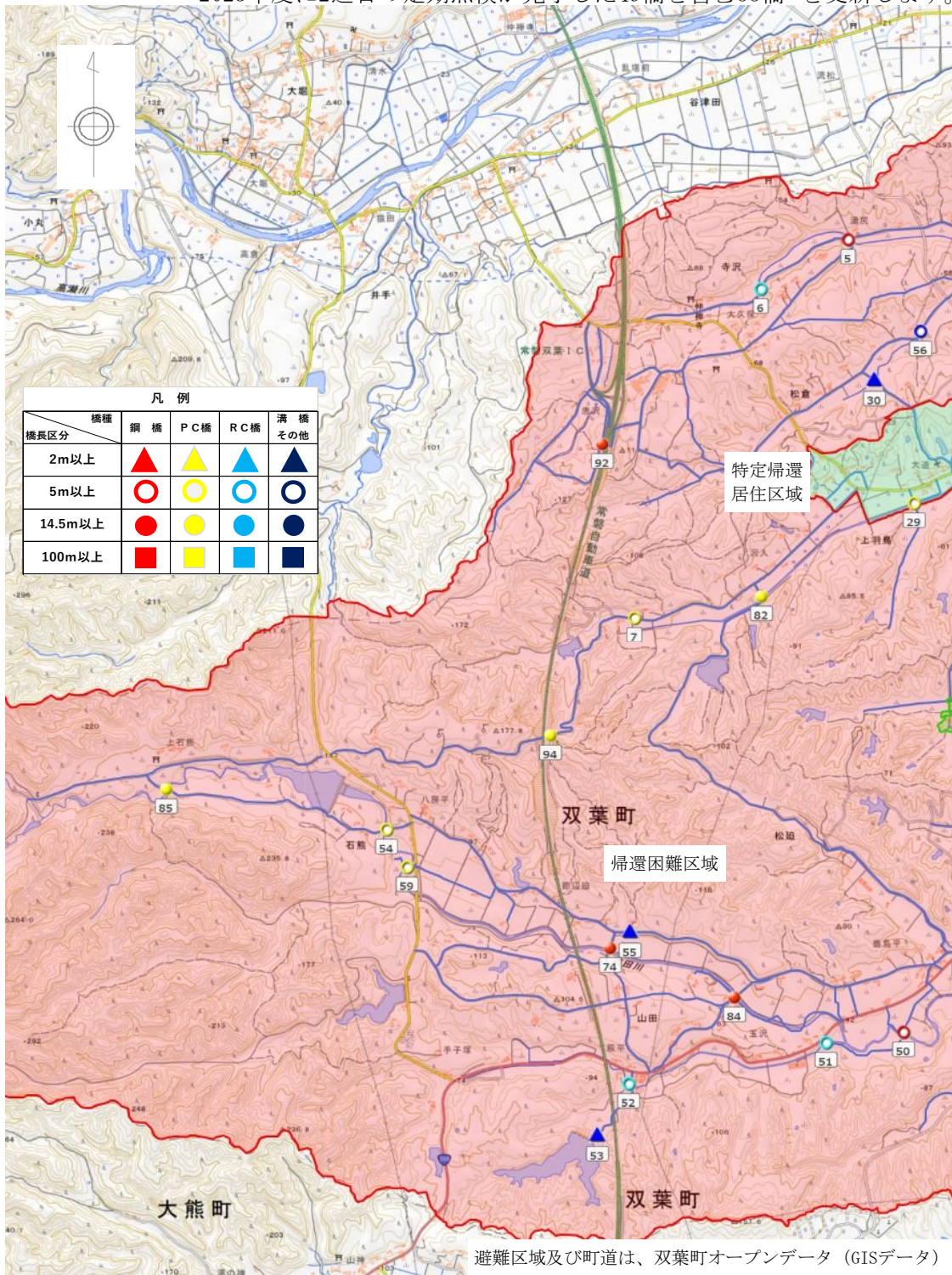


予算平準化のイメージ

## 2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	町道 1級	町道 2級	町道 その他	合計
全管理橋梁数	20	21	57	98
うち計画の対象橋梁数	20	21	57	98
うち2022年度計画策定・更新橋梁数	9	12	22	43
うち2023年度計画策定・更新橋梁数	11	9	35	55

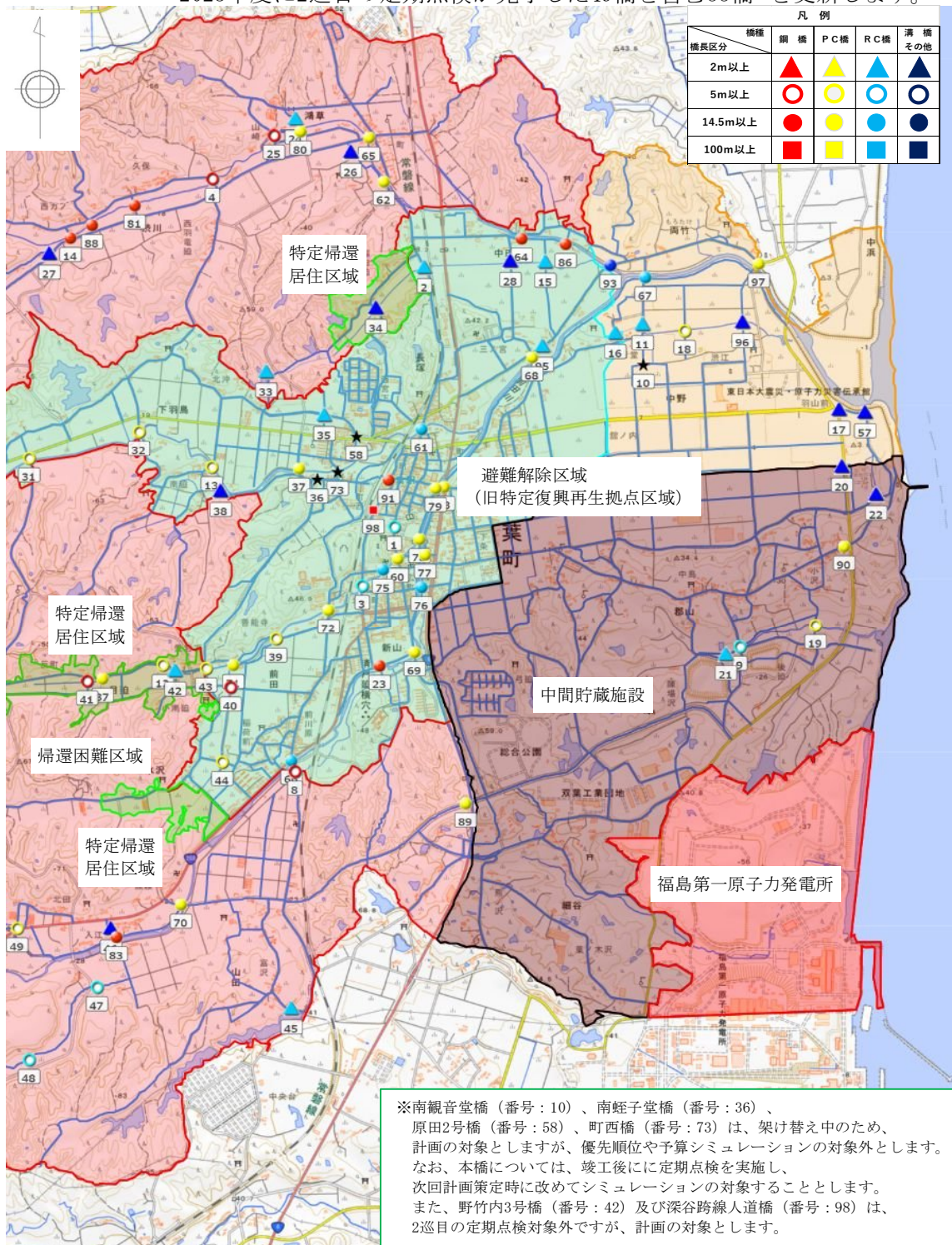
※長寿命化修繕計画の対象：双葉町が管理する橋長2.0m以上の橋梁98橋の内、  
2023年度に2巡目の定期点検が完了した49橋を含む55橋※を更新します。



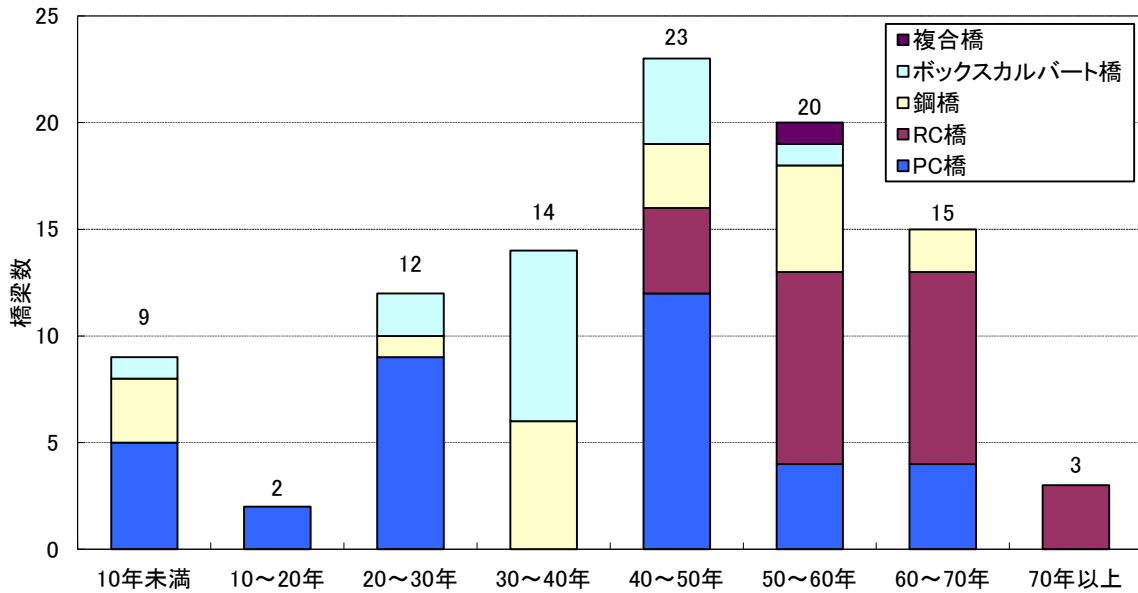
## 2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	町道 1級	町道 2級	町道 その他	合計
全管理橋梁数	20	21	57	98
うち計画の対象橋梁数	20	21	57	98
うち2022年度計画策定・更新橋梁数	9	12	22	43
うち2023年度計画策定・更新橋梁数	11	9	35	55

※長寿命化修繕計画の対象：双葉町が管理する橋長2.0m以上の橋梁98橋の内、  
2023年度に2巡目の定期点検が完了した49橋を含む55橋※を更新します。



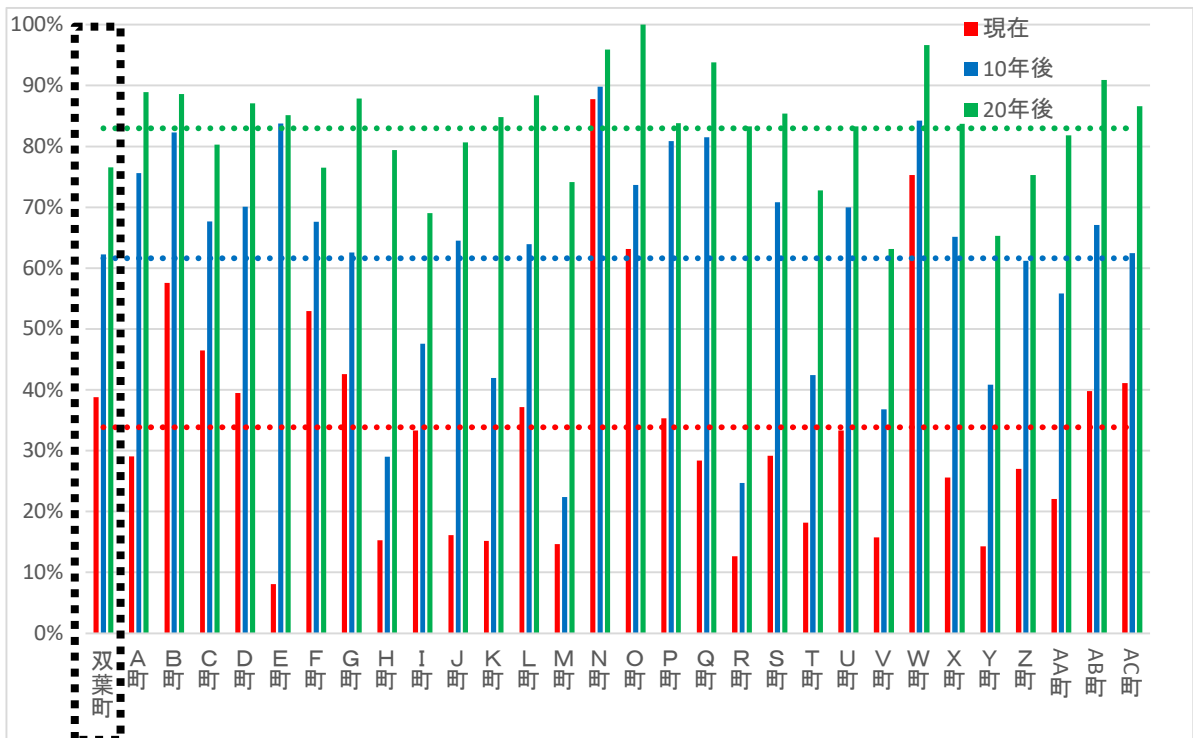
経過年数別橋梁数



経過年数別橋梁数

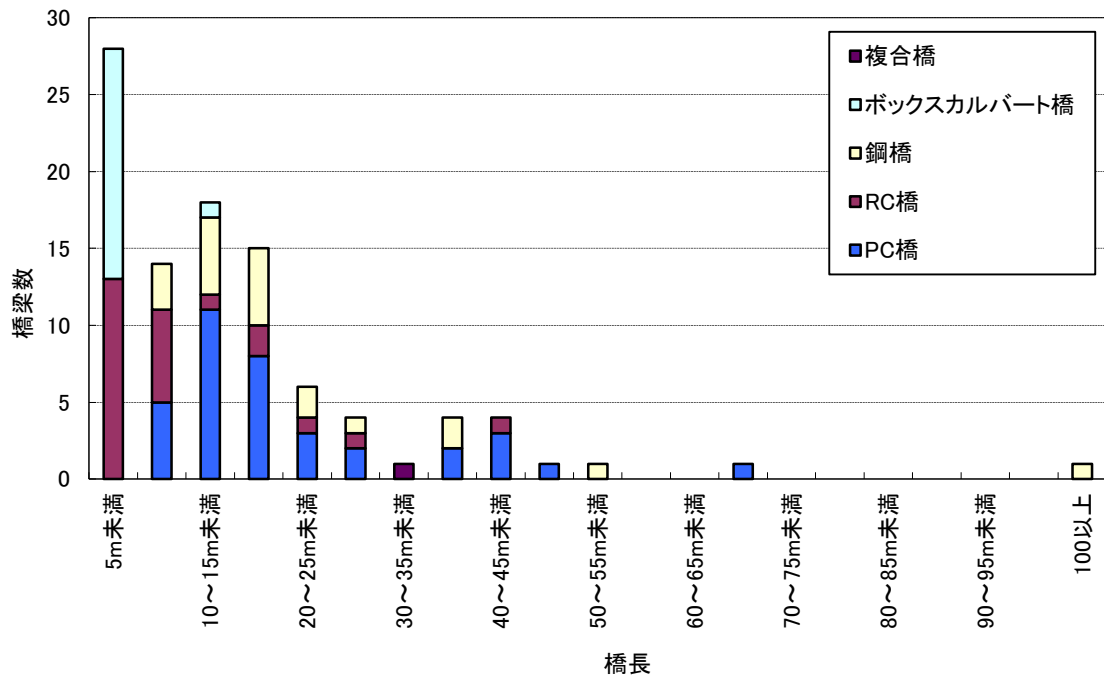
※長寿命化修繕計画で対象としている98橋のうち、建設後50年以上を経過している橋梁は38橋あり、全体の39%を占めています。36橋の内の16橋は、建設後60年以上を経過しており、1橋は建設後90年以上を経過しています。

県内市町村（抜粋）の建設後50年以上を経過する橋梁の割合



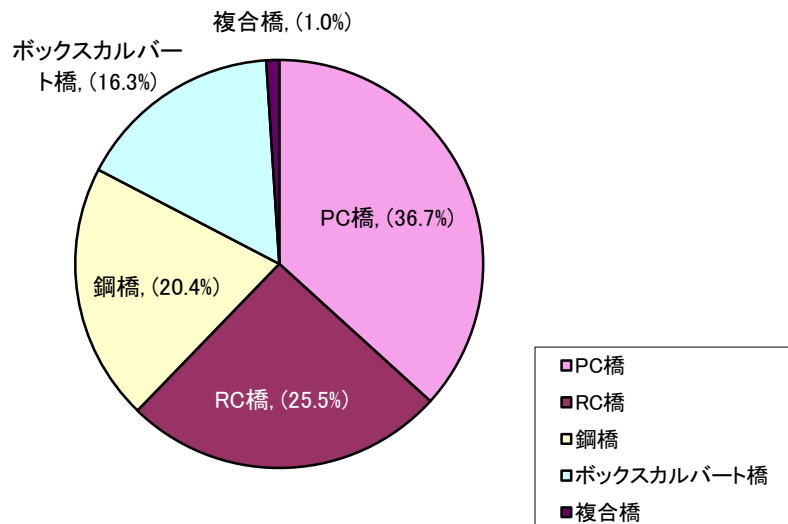
※点線：県内市町村の平均値  
 現在(34%) 10年後(62%) 20年後(83%)

橋長別橋梁数



※長寿命化修繕計画で対象としている98橋のうち、15m以上の橋梁が38橋あり全体の39%を占めています。また、5m未満の橋梁が28橋あり全体の29%を占めています。

上部工使用材料別橋梁数の比率



※上部工使用材料別ではPC橋が36橋で全体の37%、RC橋が25橋、ボックスカルバート橋が16橋でコンクリート橋が全体の79%を占めています。複合橋は、RCT桁+PCT桁が1橋です。



3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針  
(計画期間)

1) 健全度の把握の基本的な方針

(・老朽化対策における基本方針)

健全度の把握については、国土交通省道路局の「道路橋定期点検要領」(平成31年2月)に基づいて、専門技術者による5年に1回の定期点検及び健全性の診断や、必要に応じて行う詳細点検により、各部材の劣化や損傷の程度などを早期に把握します。

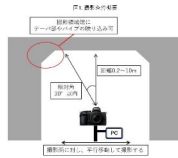
(・新技術等の活用方針)

定期点検における近接方法については、新技術情報提供システム(NETIS)や点検支援技術性能カタログなどを参考に、有用な新技術の活用を検討していきます。特に2巡目点検において、損傷が無しまたは軽微で、判定区分が「I」となった床版橋や溝橋等の小スパン橋梁13橋については、3巡目点検時(令和6年度以降順次実施予定)に、画像解析・AI診断等の新技術の活用を目指し、検討していきます。

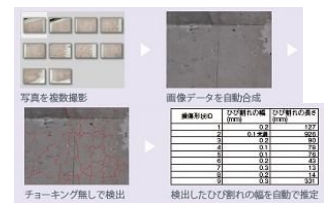
※検討する橋梁：13橋 実施予定年度：令和6年度～令和10年度(定期点検3巡目)  
コスト削減効果(概算)：点検費用 7万円/橋 程度削減



ドローンによる桁下の点検



デジタルカメラによる溝橋の点検



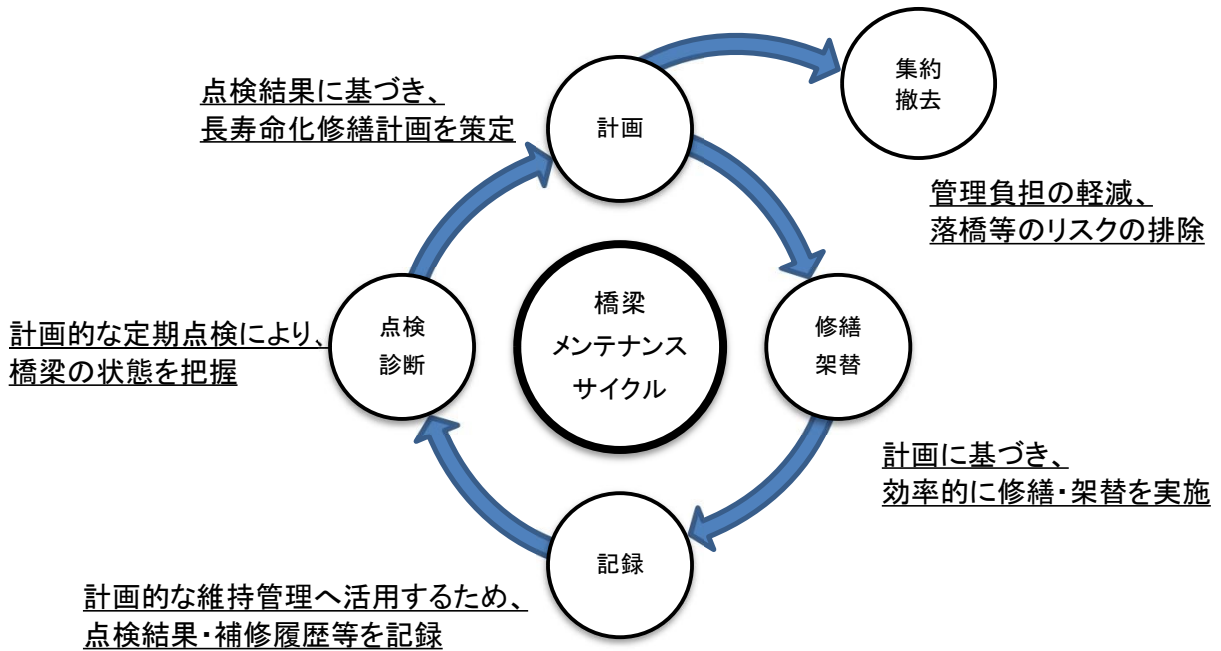
AI・画像診断

橋梁点検における新技術の活用例：(出典)国土交通省「点検支援技術性能カタログ」

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

利用者の安全性の確保及び橋梁を良好な状態に保つために、町職員によるパトロールを実施し、排水柵清掃や舗装の軽微な補修等の日常的な維持管理を行います。

橋梁メンテナンスサイクル 概念図



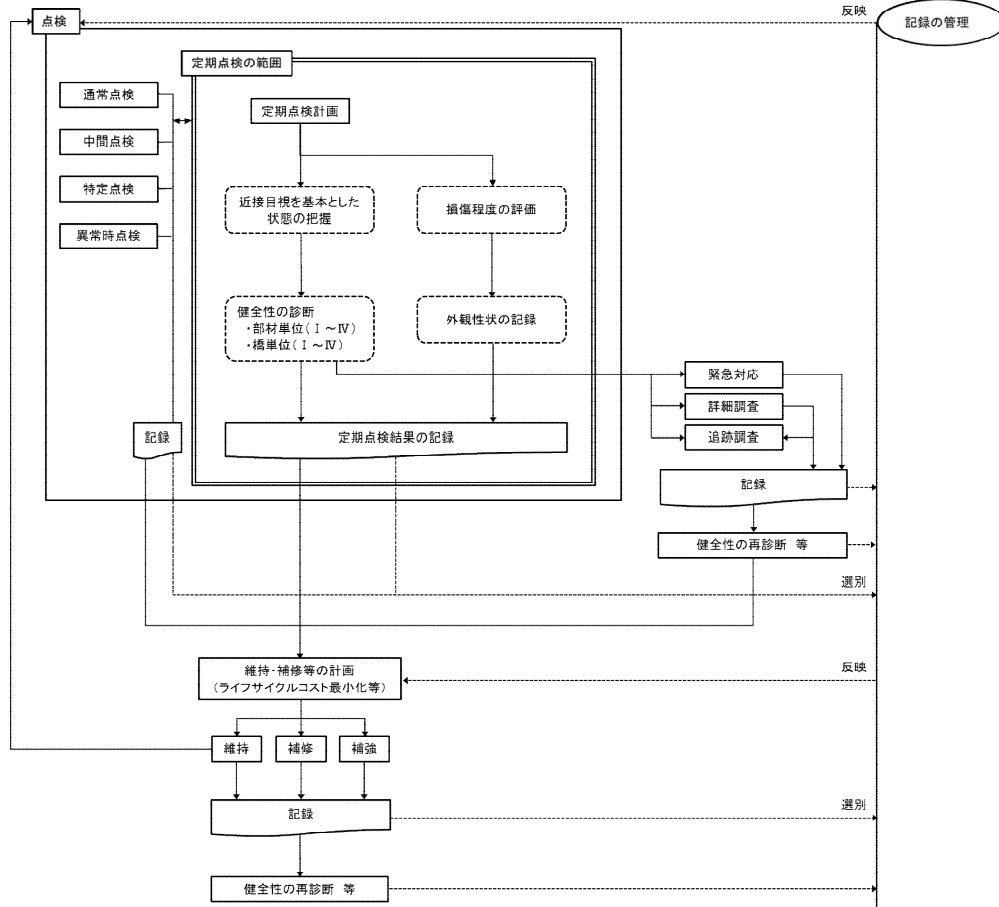
3) 計画期間

5年に1回の定期点検結果を基に中長期的な予測を行い、今後50年間の橋梁長寿命化修繕計画を策定します。(計画期間：2024年～2073年)

### 3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

参考：橋梁維持管理の基本的な考え方

維持管理の手順（フローチャート）



出典：橋梁定期点検要領（国土交通省 道路局 国道・技術課、H31.3）を一部修正

#### 点検の種類

通常点検	突発的に生じる不具合や損傷を早期に発見するために、高い頻度で行われる点検。日常巡回やパトロールと合わせて行ったり、巡回やパトロールそのものがこれを兼ねるものと位置づけられる場合もある。
定期点検	橋梁の損傷状況の把握及び健全性の診断をあらかじめ頻度を定めて計画的に実施する詳細な点検。全ての部材に近接して目視調査を行うことが基本であり、必要に応じて非破壊検査機器なども用いて必要な情報を得る。
中間点検	定期点検を補うために、定期点検の中間年に実施するもので、定期点検時に、次回の定期点検まで待たずに途中で状態確認を行うことが必要と判断された場合に計画される。
臨時点検	塩害やアルカリ骨材反応、鋼部材の疲労等の定期点検のみでは適切かつ十分な評価が困難な特定の事象に対して、定期点検とは別に、それぞれの事象に特化した内容によって行われる点検。
異常時点検	地震、台風、集中豪雨、豪雪等の災害や大きな事故が発生した場合などに、橋梁の状態を確認するために臨時で行われる点検。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針  
(対策の優先順位の考え方)

双葉町が管理する橋梁の中で、架設後30年以上を経過した橋梁は全体の77%を占めているため、近い将来一斉に架替時期を迎えることが予想されることから、計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、橋梁の寿命を100年間とすることを目標とし、修繕及び架替えに要するコストを縮減します。

1) 管理区分の設定

修繕計画策定にあたり、橋梁の諸元情報（橋長や幅員等）や重要度を考慮した管理区分を橋梁毎に設定します。

管理区分の定義

管理区分	該当橋梁	補修時期	寿命	点検方法		簡易予防保全	
				日常巡回 ※2	橋梁点検 (1回/5年) ※3	橋面 洗浄	桁 洗浄
S	・跨線橋 ・跨道橋 ・橋長100m以上 ・重要度※1 該当3つ	健全度ランクD(4) にしない	原則架替え は行わない	○	○	② ※4	②
A	重要度該当2つ	健全度ランクD(4) にしない	100年	○	○	⑤	⑤
B	重要度該当0 または1つ	健全度ランクE(5) にしない	60年	○	○		⑤
C	・重要度該当0 かつ ・カルバート橋 ・5m未満橋梁 ・既橋 ・橋梁以外の形式	健全度ランクE(5) になるまで	耐用年数 まで	○	○		
備考	※1「重要度」 ①緊急輸送路 ②1,2級市町村道 ③バス路線		特殊橋梁は 橋梁ごとに 設定	※2「日常巡回」は、排水槽の 清掃及び寄座面の増殖土砂 除去を実施(費用は計上せ ず) ※3橋梁点検費用は計上		※4簡易予防保 全費用を橋梁ごと に計上する ②:2年に1回 ⑤:5年に1回	

(・費用の縮減に関する具体的な方針)

双葉町の管理する橋梁の中には、供用開始当時に比べ利用状況が著しく減少している橋梁もあることから、現在の利用状況や代替え路の有無を把握したうえで周辺住民と調整し、橋の統廃合も視野に入れた維持管理を行っていきます。

※検討する橋梁：野竹内3号橋、野竹内2号橋、和久前橋、大迫橋

実施予定年度：令和10年度まで（対策が必要となった場合）

参考. 単純撤去によるコスト縮減効果（概算）：点検費用約200万円程度縮減

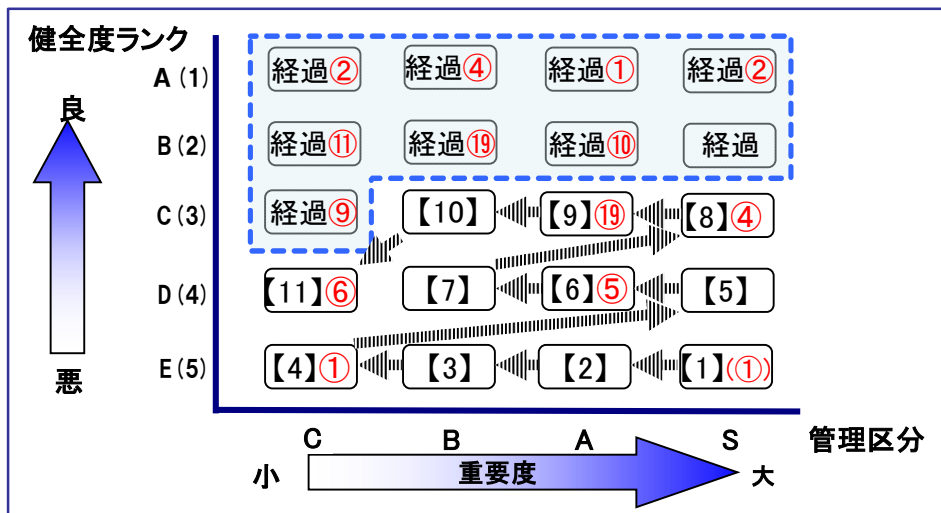
深谷跨線人道橋（L=168.3m）は、令和4年3月の福島県沖地震により、跨線部の上部工に著しい損傷が確認されたことから撤去を実施し、第三者被害の防止を図っています。また、付近には人道橋（L=23.1m）が新設されたことから、スロープ部も撤去し、点検費等の縮減に努めていきます。

※実施予定年度：令和6・7年度

参考. 単純撤去による点検費用縮減効果（概算）：約1,000万円程度縮減

2) 優先順位のつけ方

優先順位は以下のマトリックスにより管理区分と主要部材の健全度の関係から決めるものとします。



※丸囲み数字は、該当橋梁数 シミュレーション対象外4橋除く

3) 橋梁毎の点検結果 (個別施設の状態等)

3-1) 定期点検結果

双葉町は平成30年度に近接目視による1巡目の定期点検及び橋梁毎の健全性の診断を行いました。また、令和4・5年度に2巡目の定期点検を実施しました。橋梁毎の点検結果は以下のとおりです。(判定区分「Ⅱ」、健全度ランク「C(3)」以上)

番号	橋梁名	橋長 (m)	径間数	上部工 使用材料	上部工 構造形式	車道 幅員 (m)	竣工年	経過年	部材種別	健全度 ランク (前回)	健全度 区分 (前回)	前回 点検 年次	健全度 ランク	健全度 区分	最新 点検 年次	備 考
0061	戎川橋	18.06	2	RC橋	RC T桁	6.85	1932	92	主桁、床版、下部工	D(4)	Ⅲ	H30	D(4)	Ⅲ	R4	剝離・鉄筋露出、ひびわれ、漏水・遊離石灰
0008	西郷内橋	7.50	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	6.90	1970	54	主桁	D(4)	Ⅲ	H30	D(4)	Ⅲ	R5	腐食、防食機能の劣化
0011	北観音堂橋	3.55	1	RC橋	RC床版橋(その他)	5.50	1973	51	床版	D(4)	Ⅲ	H30	D(4)	Ⅲ	R4	剝離・鉄筋露出
0016	観音堂2号橋	3.40	1	RC橋	RC床版橋(その他)	3.97	1973	51	床版	D(4)	Ⅲ	H30	D(4)	Ⅲ	R4	剝離・鉄筋露出、うき、変形・欠損
0063	天神橋	28.40	1	PC橋	プレテンT桁	9.50	1966	58	主桁、床版、下部工	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	ひびわれ、定着部の異常、剝離・鉄筋露出、漏水・遊離石灰
0093	古跡橋	30.04	3	RC橋	RC T桁	6.52	1964	60	主桁				C(3)	Ⅱ	R5	ひびわれ、剝離・鉄筋露出、うき、変形・欠損
0064	中田橋	23.00	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	4.00	1971	53	主桁、横桁、下部工	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	腐食、防食機能の劣化、遊間の異常、ひびわれ
0086	大佛前橋	26.78	1	鋼溶接橋	H桁(不明)	3.00	1981	43	主桁	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	遊間の異常
0042	野竹内3号橋	4.27	1	RC橋	RC床版橋(その他)	2.66	1965	59	下部工				E(5)	Ⅳ	H30	沈下・移動・傾斜
0041	野竹内2号橋	8.02	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	2.29	1965	59	主桁	D(4)	Ⅲ	H30	D(4)	Ⅲ	R4	腐食、防食機能の劣化
0012	郡代橋	11.80	1	PC橋	プレテンT桁	6.00	1979	45	横桁	D(4)	Ⅲ	H30	D(4)	Ⅲ	R4	漏水・遊離石灰
0031	官福橋	13.50	1	PC橋	PC 床版橋その他	5.50	1979	45	主桁、床版	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	ひびわれ、漏水・遊離石灰
0034	福田追橋	2.30	1	RC橋	RC床版(BOXのルバー)	6.77	1991	33	頂版、側壁				C(3)	Ⅱ	R4	その他、変形・欠損
0089	高万追橋	38.00	1	PC橋	ボステンT桁	14.50	1999	25	横桁	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	漏水・遊離石灰、ひびわれ
0094	八房平橋	67.40	3	PC橋	ラーメン橋	5.50	2007	17	横桁	B(2)	Ⅰ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	剝離・鉄筋露出、うき
0090	沼ノ沢橋	40.10	3	PC橋	ラーメン橋	7.00	2002	22	下部工	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	沈下・移動・傾斜、ひびわれ
0039	善能寺下橋	13.25	1	PC橋	PC 床版橋その他	4.00	1978	46	主桁、床版	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	ひびわれ、漏水・遊離石灰
0076	新山橋	23.75	3	RC橋	RC T桁	4.22	1957	67	主桁、横桁、下部工	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	剝離・鉄筋露出、うき、変形・欠損、ひびわれ
0056	寺沢南追橋	13.30	1	RC橋	RC床版(BOXのルバー)	7.20	1991	33	頂版、側壁	A(1)	Ⅰ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	その他、変形・欠損
0069	天玉山橋	35.69	4	PC橋	PC 床版橋その他	3.97	1962	62	主桁	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	遊間の異常
0071	江坪橋	14.90	1	PC橋	プレテンT桁	6.00	1978	46	主桁、横桁	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	ひびわれ、定着部の異常、漏水・遊離石灰
0078	出合い橋	24.00	1	PC橋	ボステンT桁	4.00	1996	28	主桁、横桁、床版	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	漏水・遊離石灰、漏水・滞水
0002	福田追2号橋	3.05	1	RC橋	RC床版橋(その他)	5.00	1957	67	床版、下部工	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	遊間の異常、うき、変形・欠損、ひびわれ
0029	保手倉橋	13.50	1	PC橋	PC 床版橋その他	4.00	1979	45	床版	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	漏水・遊離石灰
0009	伊賀橋	5.00	1	RC橋	RC床版橋(その他)	7.10	1979	45	下部工	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	ひびわれ、漏水・遊離石灰
0072	大畑橋	15.30	1	PC橋	プレテンT桁	5.02	1979	45	主桁、横桁	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	漏水・遊離石灰、漏水・滞水、ひびわれ
0062	湧草橋	19.20	1	PC橋	PC 床版橋その他	6.00	2000	24	下部工	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	ひびわれ
0079	天神2号橋	26.17	3	PC橋	PC 床版橋その他	4.00	1959	65	下部工	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	ひびわれ、漏水・遊離石灰、剝離・鉄筋露出、ひびわれ、沈下(一部橋脚)
0018	一丁田橋	8.10	1	PC橋	PC 床版橋その他	2.32	1966	58	下部工	B(2)	Ⅰ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	その他
0040	愛宕前橋	10.02	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	5.31	1965	59	主桁、床版	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	腐食、防食機能の劣化
0015	川原田橋	4.45	1	RC橋	RC床版橋(その他)	2.98	1960	64	床版、下部工	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	床版ひびわれ、剝離・鉄筋露出、ひびわれ、変形・欠損
0088	岩ノ道橋	15.10	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	4.00	1991	33	下部工	D(4)	Ⅲ	H30	D(4)	Ⅲ	R5	ひびわれ、うき、変形・欠損、沈下・移動・傾斜
0004	入道湖橋	10.56	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	4.22	1960	64	下部工	D(4)	Ⅲ	H30	D(4)	Ⅲ	R4	腐食、防食機能の劣化、破断、その他
0050	和久前橋	10.04	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	2.50	1963	61	下部工	D(4)	Ⅲ	H30	D(4)	Ⅲ	R4	変形・欠損
0025	山崎中橋	8.54	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	4.00	1983	41	主桁	D(4)	Ⅲ	H30	D(4)	Ⅲ	R4	腐食、防食機能の劣化
0021	後追橋	2.50	1	RC橋	RC桁橋(その他)	3.35	1964	60	主桁	D(4)	Ⅲ	H30	D(4)	Ⅲ	R4	ひびわれ、うき、変形・欠損、沈下・移動・傾斜
0055	益目貫橋	2.90	1	RC橋	RC床版(BOXのルバー)	7.00	1978	46	頂版、側壁	B(2)	Ⅰ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	ひびわれ、その他
0082	多々来橋	15.04	1	PC橋	PC 床版橋その他	4.00	1976	48	主桁、側壁	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	ひびわれ、漏水・遊離石灰
0083	入江橋	35.38	2	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	3.00	1972	52	下部工	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	剝離・鉄筋露出
0045	深沢橋	4.90	1	RC橋	RC床版橋(その他)	4.90	1980	44	床版	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	漏水・遊離石灰、変形・欠損
0081	樋口橋	15.08	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	4.00	1991	33	床版	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	漏水・遊離石灰
0054	石熊2号橋	12.50	1	PC橋	PC 床版橋その他	3.66	1975	49	床版	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R5	漏水・遊離石灰
0006	唐沢橋	6.10	1	RC橋	RC床版橋(その他)	5.00	1980	44	下部工	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	ひびわれ
0047	柿木平橋	5.00	1	PC橋	PC桁橋(その他)	2.43	1960	64	主桁、下部工	C(3)	Ⅱ	H30	C(3)	Ⅱ	R4	剝離・鉄筋露出
0098	深谷跨線人道橋	168.30	10	鋼溶接橋	H桁(不明)	0.00	1975	48	主桁、床版	C(3)	Ⅱ	H30	E(5)	Ⅳ	R4	その他、遊間の異常

区分	状態	健全度 ランク	判定区分	備考	該当橋梁数	割合
I	健全	健全	A(1)	損傷が認められない	9橋	10%
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、 <b>予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態</b>	B(2)	対策不要 損傷が軽微で補修を行う必要がない	40橋	43%
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じている可能性があり、 <b>早期に措置を講ずべき状態</b>	C(3)	状況に応じ 早めに対策 状況に応じて補修を行う必要がある	32橋	34%
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、 <b>緊急に措置を講ずべき状態</b>	D(4)	早急に補修 必要 速やかに補修を行う必要がある	11橋	12%
			E(5)	緊急対応の 必要 緊急対策の必要がある	2橋	2%

定期点検による判定区分と修繕計画健全度ランクの関係 (点検実施橋梁のみ)

3-2) 主要部材の損傷写真 判定区分「Ⅲ、Ⅳ」健全度「D(4)、E(5)」の橋梁



65. 戎川橋：RC T桁橋  
 (橋長：18.06m、1932年竣工)  
 主桁下面の露出鉄筋の腐食、  
 下部工の斜めひびわれ  
 ※露出鉄筋の断面減少により、耐荷力が低下している。(迂回路有り)  
 (旧特定復興再生拠点区域)



08. 西郷内橋：鋼H桁橋  
 (橋長：7.50m、1970年竣工)  
 主桁下フランジ・ウェブの腐食  
 ※桁端部の断面欠損及び孔食により、耐荷力が低下している。  
 (迂回路有り)  
 (旧特定復興再生拠点区域)



11. 北観音堂橋：RC床版橋  
 (橋長：3.55m、1973年竣工)  
 床版下面の露出鉄筋の腐食  
 ※露出鉄筋の断面減少により、耐荷力の低下が推測される。(迂回路有り)  
 (旧避難指示解除準備区域)



16. 観音堂2号橋：RC床版橋  
 (橋長：3.40m、1973年竣工)  
 床版下面の露出鉄筋の腐食  
 ※露出鉄筋の断面減少により、耐荷力の低下が推測される。(迂回路有り)  
 (旧避難指示解除準備区域)



42. 野竹内3号橋：RC床版橋  
 (橋長：4.27m、1965年竣工)  
 下部工の沈下・傾斜  
 ※下部工の沈下及び傾斜により、鉛直支持機能を喪失している。  
 (現在通行止め)  
 (特定帰還居住区域)



41. 野竹内2号橋：鋼H桁橋  
 (橋長：8.02m、1965年竣工)  
 主桁下フランジ・ウェブの腐食  
 ※下フランジ・ウェブの著しい腐食により、耐荷力の低下が推測される。  
 (迂回路有り)  
 (特定帰還居住区域)

3-2) 主要部材の損傷写真 判定区分「Ⅲ、Ⅳ」健全度「D(4)、E(5)」の橋梁



12. 郡代橋：プレキャスト桁橋  
 (橋長：11.80m、1979年竣工)  
 横桁PC定着部の錆汁を伴った漏水  
 ※内部鋼材の腐食の進行は、耐荷力の低下に  
 影響する。(迂回路有り)  
 (特定帰還居住区域)



88. 岩ノ迫橋：鋼桁橋  
 (橋長：15.10m、1991年竣工)  
 橋台パラペットの欠損、傾斜  
 ※パラペット付け根の壊れにより、背面土  
 土留め機能の低下が推測される。  
 (迂回路有り)  
 (帰還困難区域)



04. 入道淵橋：鋼桁橋  
 (橋長：10.56m、1960年竣工)  
 主桁スラブアンカーの破断  
 ※アンカーの破断による床版との分離によ  
 り、荷重伝達機能の低下が推測される。  
 (迂回路有り)  
 (帰還困難区域)



50. 和久前橋：鋼桁橋  
 (橋長：10.04m、1963年竣工)  
 橋台パラペットの断面欠損  
 ※著しく断面欠損しており、部材としての  
 機能を消失している。  
 (迂回路有り)  
 (帰還困難区域)



25. 山崎中橋：鋼桁橋  
 (橋長：8.54m、1983年竣工)  
 主桁端部ウェブ・下フランジの腐食  
 ※支点上での板厚減少により、耐荷力の低  
 下が推測される。(迂回路有り)  
 (帰還困難区域)



21. 後迫橋：RC桁橋  
 (橋長：2.50m、1964年竣工)  
 主桁下面の露出鉄筋の腐食  
 ※露出鉄筋の断面減少により、耐荷力の低  
 下が推測される。(迂回路有り)  
 (中間貯蔵施設)

### 3-3) 橋梁の補修状況

双葉町は、定期点検結果より早期対策が必要な判定区分「Ⅲ」及び予防保全対策が必要な判定区分「Ⅱ」と診断された橋梁のうち、10橋について、橋梁の延命化を図ると共に、安全で円滑な交通の確保、沿道や第三者への被害の防止を図るために、令和元年度～令和5年度に、それぞれ変状の詳細調査及び補修設計を実施しました。

また、補修設計を実施した6橋を含む計7橋について、令和元年度～令和5年度にそれぞれ補修工事を実施しています。

対象橋梁は、以下のとおりです。

#### ●対策事例

- ・下条橋（令和元年度補修設計、令和2～3年度補修工事済）（判定区分：「Ⅲ」→「Ⅰ」）

#### ★補修工法 ※「N」：NETIS登録技術採用

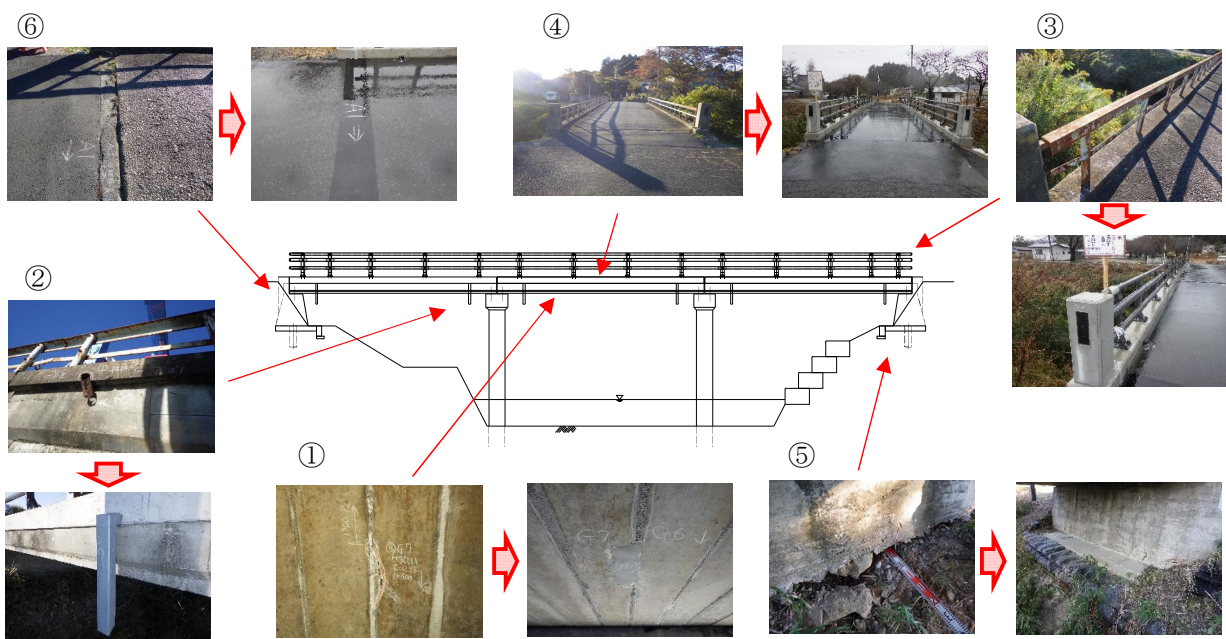
- ・上部工コンクリート補修工  
（断面修復工）・・・①
- ・排水施設補修工（排水施設取替工）・・・②
- ・高欄補修工（防護柵取替工）・・・③
- ・地覆補修工（地覆打換え工）・・・③
- ・橋面防水工（舗装打換え工）・・・④
- 〃（橋面防水工）・・・④
- ・下部工コンクリート補修工（断面修復工）  
〃（洗堀対策工）・・・⑤
- 〃（親柱撤去工）
- ・伸縮装置補修工（伸縮装置交換工）・・・⑥



下条橋全景

左：補修前

右：補修後



補修箇所（抜粋）

#### ●実施箇所

- ・高万迫橋（令和元年度補修設計、令和元年度一部補修工事済）（判定区分：「Ⅲ」→「Ⅱ」）
- ・館下橋（令和元年度補修設計、令和3年度補修工事済）（判定区分：「Ⅲ」→「Ⅰ」）
- ・樋場橋（令和2年度補修設計、令和3年度一部補修工事済）（判定区分：「Ⅲ」→「Ⅰ」）
- ・坂下橋（令和2年度補修設計、令和2～3年度補修工事済）（判定区分：「Ⅲ」→「Ⅰ」相当）
- ・西郷内橋（令和3年度補修設計済）（令和6年度補修工事着工予定）
- ・戎川橋（令和4・5年度架替設計済）（令和7年度架替工事着工予定）
- ・根小屋橋（令和4年度補修設計済）（令和5年度補修工事着工済）
- ・観音堂2号橋、北観音堂橋（令和5年度補修設計済）（令和6年度補修工事着工予定）
- ・天神2号橋（県により一部補修工事済）（判定区分：「Ⅲ」→「Ⅱ」）

### 3-4) 橋梁の撤去・集約化事例

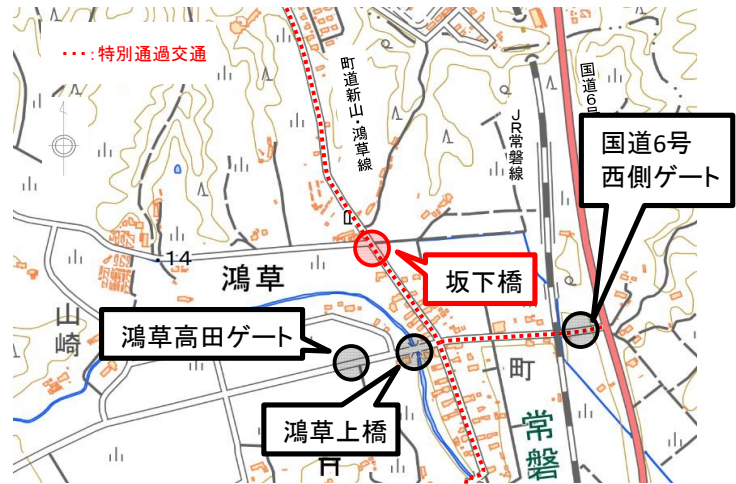
双葉町の小スパン（橋長2～5m）橋梁の多くは、高度経済成長期に建設され、社会経済の発展や町民生活の向上に寄与してきました。しかし、一部の小スパン橋において、平成30年度の定期点検の際、老朽化により早期対策が必要と判断された判定区分「Ⅲ」とした損傷が確認されました。判定区分「Ⅲ」の橋梁は、5年以内に対策（補修、架替等）を講じることを基本としていますが、町では、桁下を流れる水路の幅が1m程度であることから、ボックスカルバート（溝橋※の定義外）へ機能縮小を図ったことにより、第三者被害の防止や、維持管理費用の縮減に繋がっています。

※溝橋：道路の下を横断する道路や水路等の空間を確保するために盛土あるいは地盤内に設けられる構造物で、橋長2m以上かつ土被り1m未満のボックスカルバート。

- ・橋梁名：坂下橋
- ・路線名：新山・鴻草線
- ・集約・撤去方針：機能縮小  
（既設の橋梁を撤去し、ボックスカルバート（溝橋の定義外）へ架替）
- ・集約・撤去理由：定期点検により早期措置が必要な損傷を確認



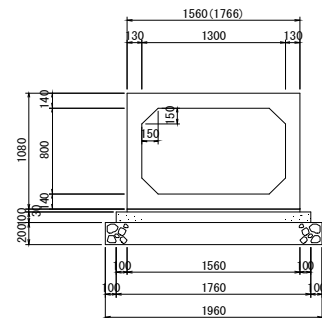
損傷状況（床版鉄筋露出）



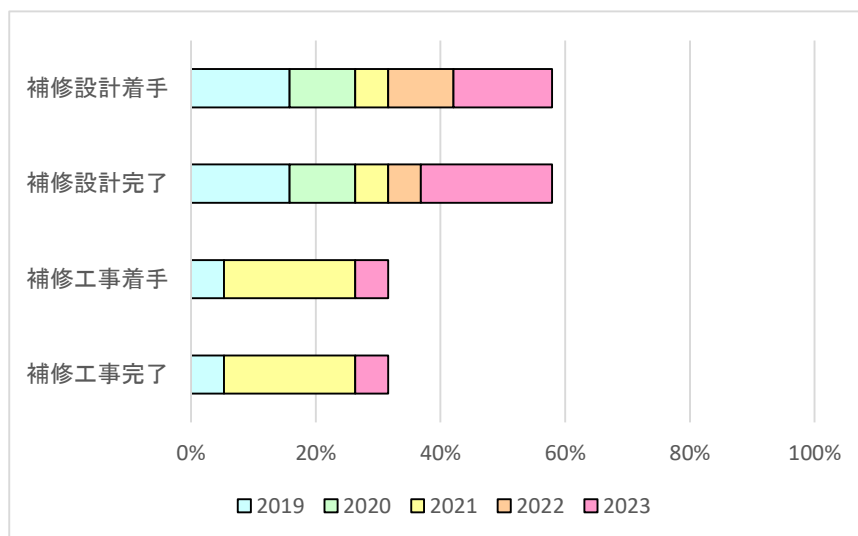
左：旧橋全景（左側）



中：新橋全景（左側）



右：橋梁一般図



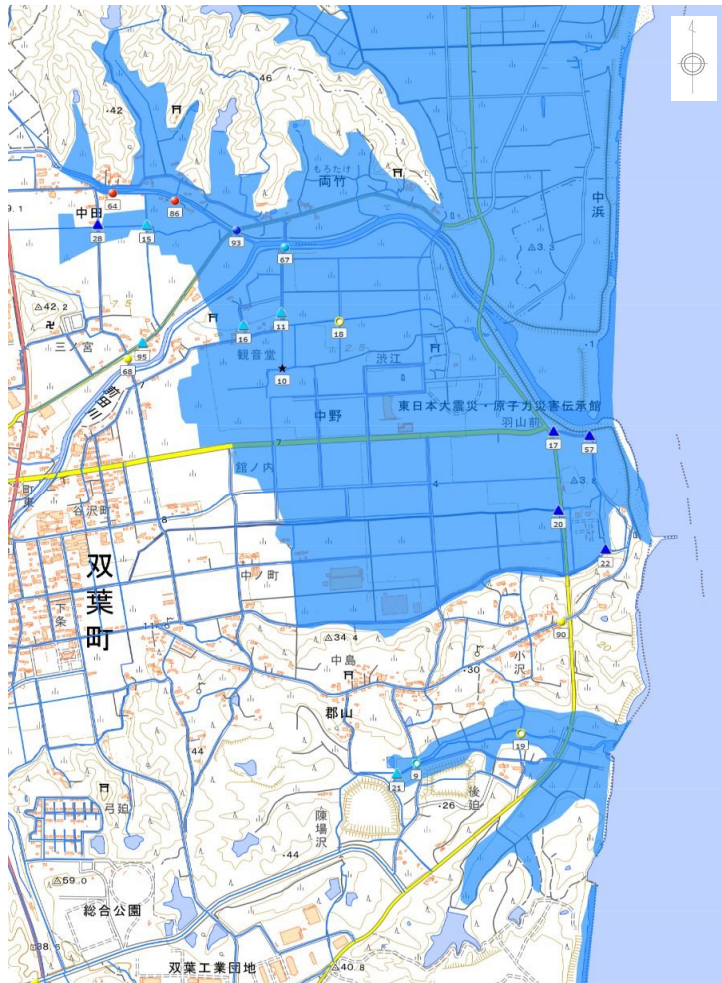
対象  
N=19[橋]  
判定区分  
Ⅱ～Ⅳ

橋梁メンテナンス事業 着手状況（定期点検2巡目）



### 3-5) 塩害による劣化が懸念される橋梁

津波の浸水範囲内に位置する橋梁は、今後、塩害による急速な劣化の進行が懸念されるため、町職員によるパトロールにより定期的な監視を実施して、塩害による劣化の早期発見に努めます。



○ : 津波の浸水範囲

浸水範囲は地理院地図より



観音堂2号橋 (番号: 11)  
(側景: 右側)



床版下面鉄筋露出  
(平成22年度 (震災前) 撮影)



床版下面鉄筋露出  
(平成30年度 (震災後7年経過) 撮影)



床版下面鉄筋露出  
(令和4年度 (震災後11年経過) 撮影)

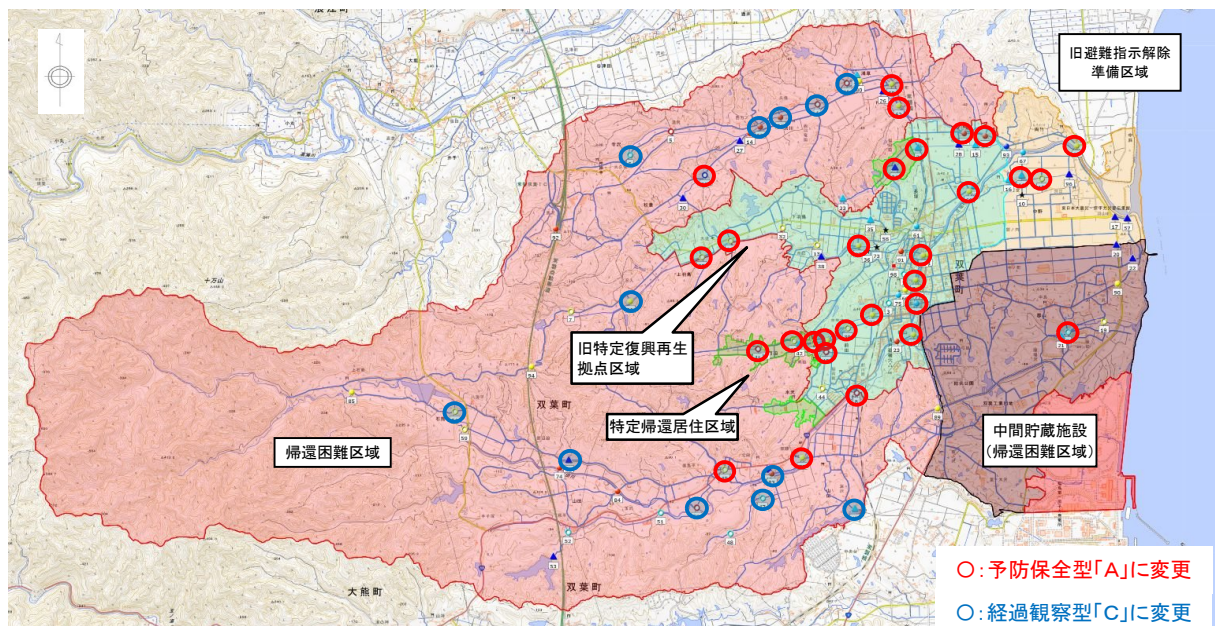
塩分による損傷の進行 (中性化との複合劣化) とされる橋梁の例

#### 4) 修繕計画策定における管理区分を見直しする橋梁

健全度ランクが「D」及び「C」の橋梁の中で、避難指示解除区域に架かる橋梁19橋について、交通量が多いと考えられることから、管理区分を「A」の予防保全型として計画策定を行うこととしました。

また、帰還困難区域に位置する健全度が「D」及び「C」で管理区分が「B」の橋梁12橋については、交通量が少ないと考えられることから、管理区分を「C」の経過観察型として計画策定を行うこととしました。ただし、帰還困難区域であっても一時帰宅者等の利用はあるため、パトロールや定期点検を継続的に実施し、劣化の進行が確認された時点で対応について検討します。

なお、帰還困難区域及び避難解除区域に位置する管理区分が「B」の橋梁の内、10橋は特別通過交通区間や中間貯蔵施設への輸送路、有人ゲート付近等に位置する橋梁であり交通量が多く、疲労による急速な損傷の進行が懸念されることから、管理区分を「A」の予防保全型とし、損傷が軽微な内に対策を講じ、補修費用の縮減を図る計画としました。



#### 5) 優先順位を考慮すべき橋梁

戎川橋は、主桁の鉄筋露出や下部工のひびわれ等により、判定区分を「Ⅲ」（健全度ランク「D(4)」）とした橋梁ですが、本橋は、町市街地を縦断する町道（旧国道6号）に架橋されていることから交通量は多く、また、損傷の発生により、道路規制（幅員減少）が敷かれており、優先度も高いことから、順位を修正しました。（2位→1位）

なお本橋は、建設後90年以上を経過しており、老朽化が進んでいることや、双葉駅周辺へのアクセス道路となっていることから、令和7年度より、架替を実施する予定です。



全景（起点側）



位置図

5) 優先順位を考慮すべき橋梁

西郷内橋は、主桁ウェブの孔食などにより、判定区分を「Ⅲ」（健全度ランク「D(4)」）とした橋梁ですが、本橋は、帰還困難区域へ進入するための立入ゲート入口に架設されており、優先度は高いことから、順位を修正しました。（3位→2位）



全景（起点側）



位置図

北観音堂橋は、床版下面の鉄筋露出により、判定区分を「Ⅲ」（健全度ランク「D(4)」）とした橋梁ですが、本橋は、避難解除区域に位置しており、橋周辺は、「双葉町復興まちづくり計画（第三次）（双葉町 令和4年6月）」において、農業再生モデルゾーンに指定していることから、交通量が多いため、順位を修正しました。（6位→3位）



全景（起点側）



位置図

5) 優先順位を考慮すべき橋梁

天神橋及び古跡橋、中田橋、大佛前橋は主要部材の損傷の判定区分は「Ⅱ」（健全度ランク「C(3)」）ですが、支承部の下沓やサイドブロックの亀裂・破断、沓座モルタルの欠損により機能障害を生じており、早期の対策が必要であることから、順位を修正しました。（天神橋：7位→5位、古跡橋：11位→6位、中田橋：12位→7位、大佛前橋：22位→8位）



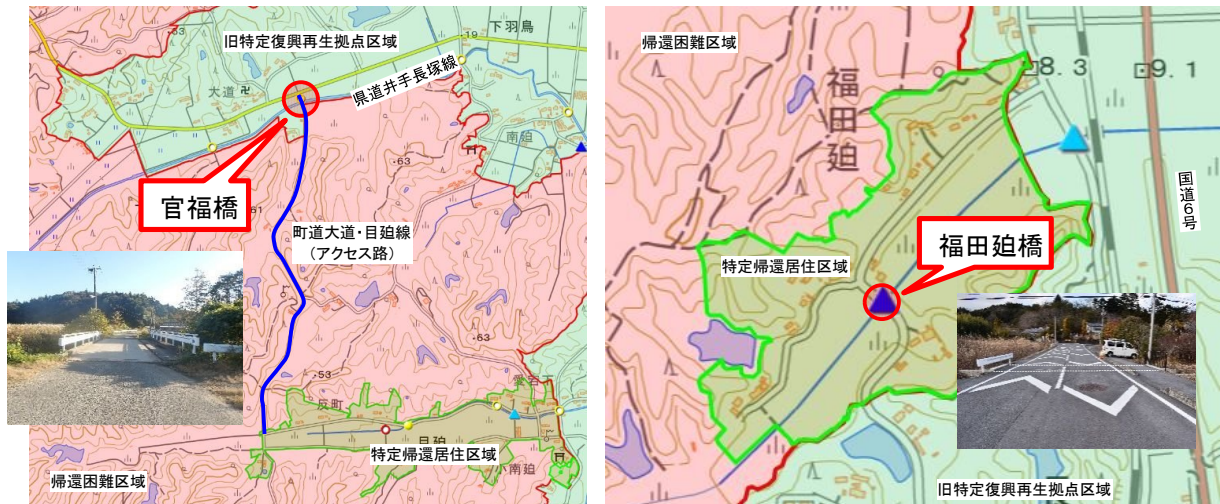
位置図（写真：損傷状況）

観音堂2号橋及び川原田橋は、緊急輸送路等に該当する項目がなく、また5m未満の橋梁であるため、経過観察型「C」となる橋梁ですが、2橋は避難解除区域に位置し、他の経過観察型（帰還困難区域）の橋梁よりも優先度は高いことから、順位を修正しました。（観音堂2号橋：34位→4位、川原田橋：39位→31位）



位置図（写真：全景（右側））

官福橋及び福田迫橋は、特定帰還居住区域内、または区域へのアクセス路に架かる橋梁であり、優先度は高いことから、順位を修正しました。（官福橋：13位→12位、福田迫橋：21位→13位）



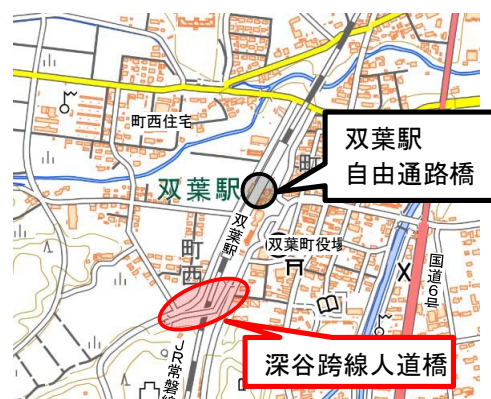
位置図（写真：全景（起点側））

#### 6) 撤去・集約化を検討・実施する橋梁

深谷跨線人道橋は、双葉駅南側のJR常磐線上に位置し、駅東側と西側を結ぶ重要な橋梁でしたが、平成23年の東日本大震災、及び令和4年3月の福島県沖地震により跨線部の上部工にズレが確認された橋梁です。東日本大震災後には、一度補修を実施しましたが、福島県沖地震にて再度損傷が発生し、令和2年3月に再開通した路下のJR常磐線への第三者被害が懸念されること、また、双葉駅構内に新たな人道橋が整備されたことにより、重要度が低いと推定されることから、撤去を実施することとしました。撤去を実施することにより、沿線や第三者への被害を防止すると共に、点検費用約1,000万円程度の縮減を図ることが可能となります。



全景（右側）※跨線部上部工撤去済



位置図

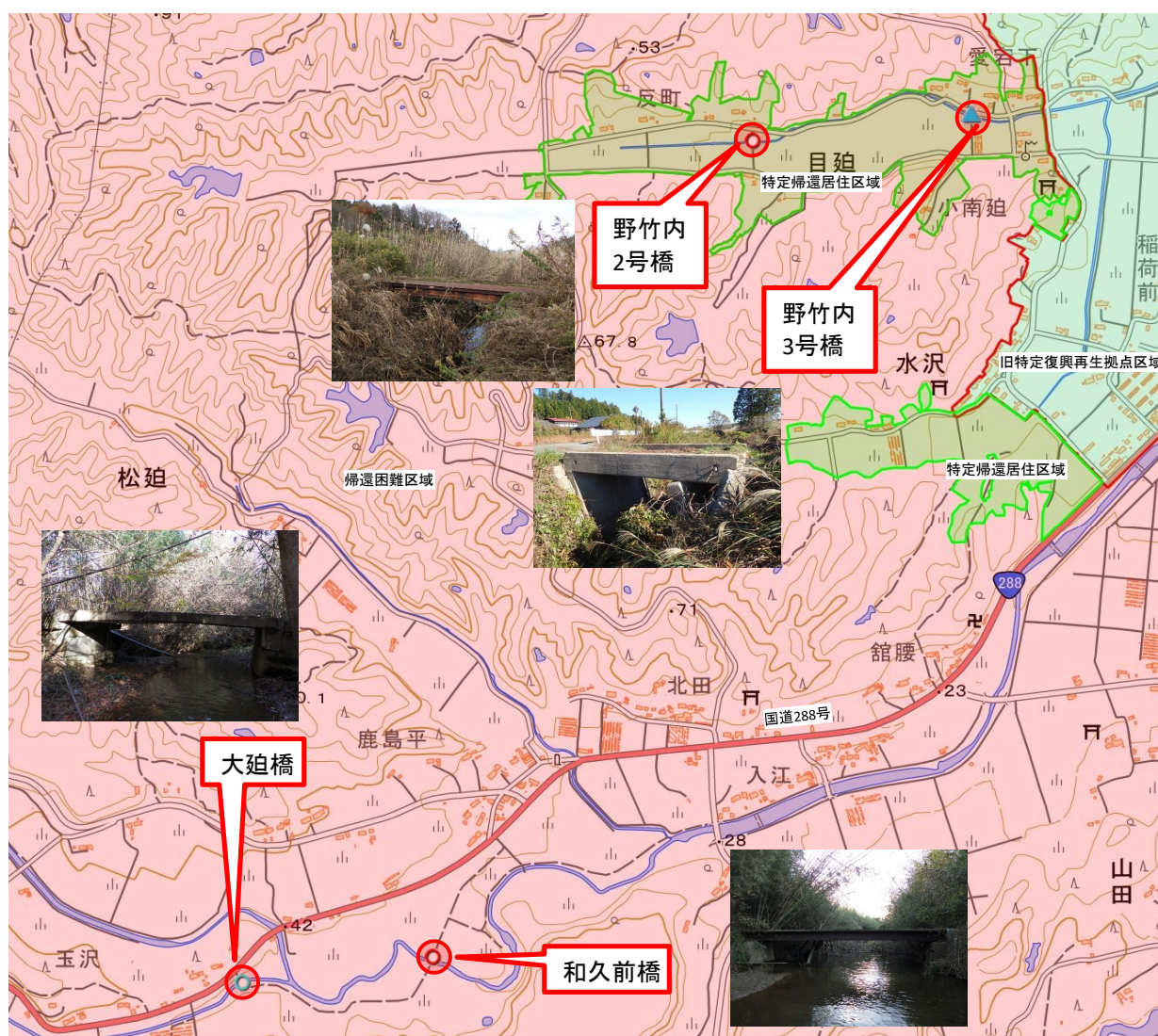
## 6) 撤去・集約化を検討・実施する橋梁

野竹内3号橋（前述）及び野竹内2号橋は、判定区分が「Ⅳ」及び「Ⅲ」（健全度ランク「E(5)」、「D(4)」）の橋梁です。2橋は、水田への往来に利用されていたと推定される橋梁ですが、これまでは帰還困難区域に位置していたため、利用者はいませんでした。しかし、当該箇所が特定帰還居住区域として承認されたことから、今後は、拠点整備の状況に併せて、撤去・集約化を含めた対策を検討していきます。

同様に、和久前橋（判定区分「Ⅲ」）及び大迫橋（判定区分「Ⅱ」）についても、撤去・集約化を含めた対策を検討し、中長期的な維持管理費用の縮減に努めていきます。

なお、上記箇所の帰還困難区域解除の時期は未定であることから、現時点では、日常パトロールや定期点検により損傷状況を確認し、順次検討していくこととします。

※4橋を撤去した場合の短期的なコスト縮減効果：点検費用約200万円程度縮減



位置図（写真：全景（右側））

## 7) 全橋梁の優先順位一覧表

上記を考慮した橋梁全体の優先順位一覧表は添付の通りです。

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期 (5. 対策内容と実施時期)  
 (・ 構造物の諸元、・ 直近の点検結果及び次回点検年度、・ 対策内容、・ 対策の着手、完了予定年度)  
 様式1-2による

※補修工法の選定にあたっては、NETIS等に登録され活用促進技術に指定されている新技術について、従来工法とのライフサイクルコストの比較検討を行った後に積極的に採用し、維持管理費用の縮減や再劣化防止等に努めていきます。

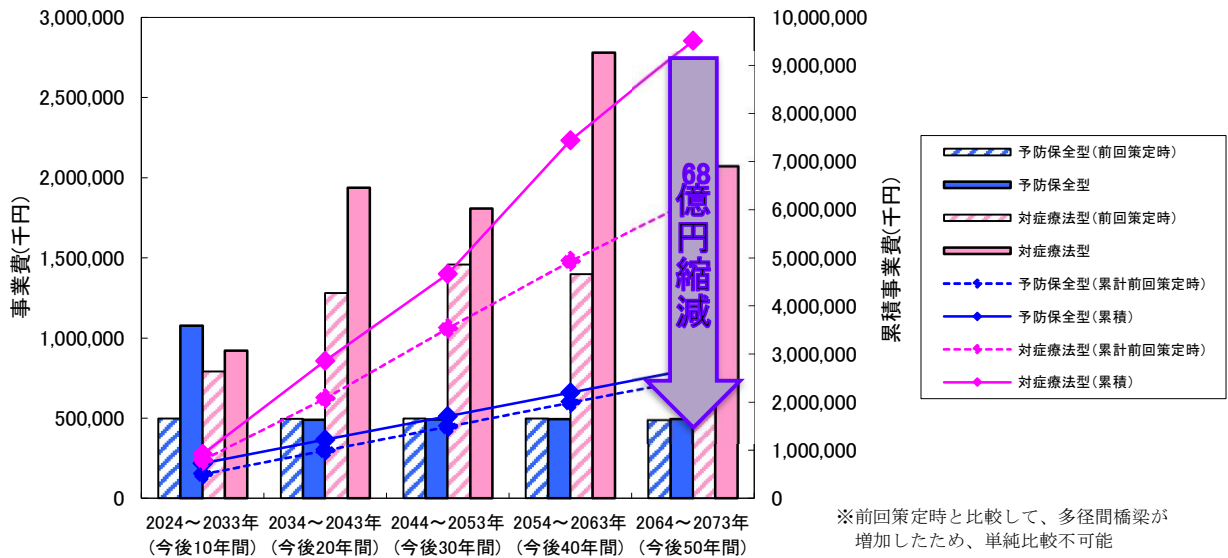
●活用促進技術に指定されている新技術の例  
 鋼橋の塗装：錆転換型塗装（登録番号）  
 コンクリート部材：断面修復工（登録番号）  
 伸縮装置：（登録番号）

(6. 対策費用の概算 (・ 対策に係る全体概算事業費) は、様式1-2、各橋梁の長寿命化修繕計画による)

6. 長寿命化修繕計画による効果

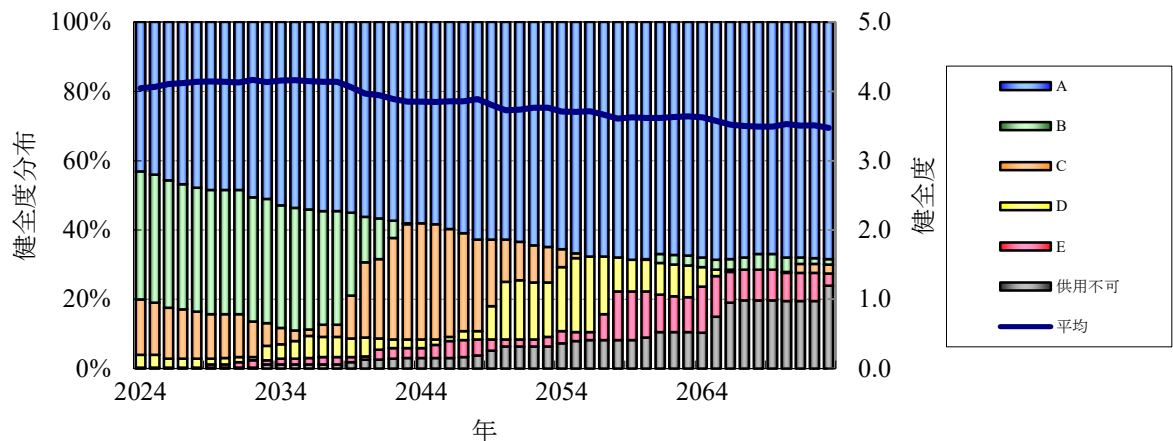
双葉町が管理する橋梁について、点検結果を基に今後50年間の予算シミュレーションを行い、以下の結果が得られました。

長寿命化修繕計画を策定する98橋について、年間の予算制約額を0.50億円とし今後50年間の事業費を比較すると、従来の対症療法型が95億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型が27億円となり、コスト縮減効果は68億円 (71.6%減) となります。



また、計画的な修繕を実施することにより、平均的な健全度を維持することが可能となり、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性及び信頼性が確保されます。

健全度分布の推移



7. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署  
双葉町 建設課 建設係 tel:0240-33-0129

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者  
日本大学 工学部 土木工学科 教授 岩城 一郎



【様式1-2】

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替時期

凡例：←→ 対策を実施すべき時期を示す。

橋梁名	道路種別	路線名	橋長(m)	架設年度	供用年数	最新点検年次	最新点検結果	対策の内容・時期								合計(千円)			
								R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13		R14	R15	
戎川橋	1級	新山・鴻草線	18.06	1932	92	R4	Ⅲ		←→										196,935
西郷内橋	1級	前田・大熊線	7.5	1970	54	R5	Ⅲ	←→											51,643
北観音堂橋	2級	長塚・両竹線	3.55	1973	51	R4	Ⅲ	←→											11,352
観音堂2号橋	その他	観音堂前線	3.4	1973	51	R4	Ⅲ	←→											8,618
天神橋	1級	長塚・新山線	28.4	1966	58	R4	Ⅱ	←→											78,309
古跡橋	1級	寺内前・森合橋線	30.04	1964	60	R5	Ⅱ	←→											44,237
中田橋	2級	館腰・中田線	23	1971	53	R5	Ⅱ	←→											48,845
大佛前橋	その他	迫間田・大仏前線	26.78	1981	43	R5	Ⅱ	←→											36,712
野竹内3号橋	その他	野竹内2号線	4.27	1965	59	H30	Ⅳ												1,000
野竹内2号橋	その他	野竹内4号線	8.02	1965	59	R4	Ⅲ												1,000
郡代橋	2級	新山・目迫線	11.8	1979	45	R4	Ⅲ												1,000
官福橋	その他	大道・目迫線	13.5	1979	45	R5	Ⅱ												1,000
福田迫橋	2級	福田迫・宮下線	2.3	1991	33	R4	Ⅱ												1,000
高万迫橋	1級	山田・郡山線	38	1999	25	R4	Ⅱ												103,787
八房平橋	1級	上羽鳥・石熊線	67.4	2007	17	R5	Ⅱ												1,000
沼ノ沢橋	1級	新山・郡山線	40.1	2002	22	R5	Ⅱ												17,826
善能寺下橋	その他	善能寺線	13.25	1978	46	R5	Ⅱ												25,175
新山橋	その他	下条・北広町線	23.75	1957	67	R4	Ⅱ												1,000
寺沢南迫橋	1級	鴻草・寺松線	13.3	1991	33	R5	Ⅱ												1,000
天王山橋	2級	新山・大熊線	35.69	1962	62	R4	Ⅱ												1,000
江坪橋	2級	新山・目迫線	14.9	1978	46	R4	Ⅱ												1,000
出合い橋	その他	鬼木・広町線	24	1996	28	R4	Ⅱ												1,000
福田迫2号橋	1級	新山・鴻草線	3.05	1957	67	R4	Ⅱ												2,765
保手倉橋	その他	保手倉線	13.5	1979	45	R5	Ⅱ												1,000
伊賀橋	1級	鹿島原・島線	5	1979	45	R4	Ⅱ												1,000
大畑橋	2級	前田・長塚線	15.3	1979	45	R4	Ⅱ												1,000
鴻草橋	1級	新山・鴻草線	19.2	2000	24	R4	Ⅱ												1,000
天神2号橋	その他	久保前・下条線	26.17	1959	65	R4	Ⅱ												1,000
一丁田橋	その他	竹の花・細田線	8.1	1966	58	R5	Ⅱ												1,330
愛宕前橋	その他	目迫・反町線	10.02	1965	59	R4	Ⅱ												8,429
川原田橋	その他	三ノ宮・迫間田線	4.45	1960	64	R4	Ⅱ												1,000
岩ノ迫橋	その他	岩の迫線	15.1	1991	33	R5	Ⅲ												1,000
入道淵橋	2級	寺沢・渋川線	10.56	1960	64	R4	Ⅲ												1,000
和久前橋	その他	橋向・前玉沢線	10.04	1963	61	R4	Ⅲ												1,000
山崎中橋	2級	坂下・山崎線	8.54	1983	41	R4	Ⅲ												1,000
後迫橋	その他	陣場沢・関ノ入線	2.5	1964	60	R4	Ⅲ												1,000
益目貫橋	1級	山田・石熊線	2.9	1978	46	R5	Ⅱ												3,255
多々来橋	その他	沢入・鹿島平線	15.04	1976	48	R4	Ⅱ												1,000
入江橋	その他	館越・北関表線	35.38	1972	52	R5	Ⅱ												1,000
深沢橋	2級	山田・富沢線	4.9	1980	44	R4	Ⅱ												1,000
樋口橋	その他	樋口・下江線	15.08	1991	33	R5	Ⅱ												1,000
石熊2号橋	その他	南八房平・石熊線	12.5	1975	49	R5	Ⅱ												1,000

凡例：←→ 対策を実施すべき時期を示す。

橋梁名	道路種別	路線名	橋長(m)	架設年度	供用年数	最新点検年次	最新点検結果	対策の内容・時期								合計(千円)			
								R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13		R14	R15	
唐沢橋	2級	寺沢・渋川線	6.1	1980	44	R4	Ⅱ												1,000
柿木平橋	その他	北関表・竹の入線	5	1960	64	R4	Ⅱ												1,000
館下橋	1級	長塚・新山線	12.6	1958	66	R4	I												1,000
鴻草上橋	1級	鴻草・寺松線	19.5	1999	25	R5	I												1,000
鬼木橋	1級	新山・鴻草線	6	1934	90	R5	I												1,000
三ノ宮橋	1級	寺内前・森合橋線	2.25	1969	55	R5	I												1,000
橋向橋	その他	北田・橋向線	5.43	1967	57	R5	I												5,651
本町橋	1級	新山・鴻草線	15.6	2003	21	R5	I												1,000
富沢橋	1級	山田・郡山線	41.2	2019	5	R4	I												1,000
北蛭子堂橋	その他	原田・目迫線	16.5	2001	23	R5	I												1,000
宮田橋	2級	中田・観音堂線	43	2021	3	R5	I												1,000
森合橋	その他	森合橋・宮ノ脇線	47.9	2023	1	R5	I												1,000
前田橋	1級	前田・大熊線	25.18	1935	89	R5	I												1,000
下条橋	その他	下条・広町線	23.04	1961	63	R4	I												1,000
樋場橋	2級	長塚・両竹線	40.15	1959	65	R4	I												1,000
湯尻橋	2級	寺沢・渋川線	12.7	1993	31	R4	I												1,000
沢入橋	1級	上羽鳥・石熊線	8.5	1976	48	R4	I												1,000
清戸迫橋	その他	天王下・清戸迫線	50	1993	31	R5	I												1,000
新堀橋	2級	中田・観音堂橋	3.9	1984	40	R5	I												1,000
清水迫橋	2級	羽鳥・町西線	4	1980	44	R4	I												4,651
渋川橋	その他	渋川橋線	14.5	1994	30	R5	I												1,000
羽黒橋	その他	羽黒沢線	8.2	1963	61	R5	I												1,000
唐松橋	2級	山田・益目貫線	18.32	1987	37	R5	I												1,000
沢田橋	その他	沢田線	7.38	1977	47	R5	I												1,000
朴迫橋	2級	羽鳥・町西線	12.1	1970	54	R5	I												1,000
竹の入橋	その他	北関表・竹の入線	5.55	1960	64	R5	I												1,000
大迫橋	その他	橋向・前玉沢線	6	1965	59	R4	I												1,000
上萩平橋	その他	上萩平線	18.3	1987	37	R5	I												1,000
愛宕下中橋	2級	新山・目迫線	18.95	1982	42	R5	I												1,000
下羽鳥南迫橋	その他	益田・南迫線	14.2	1978	46	R5	I												1,000
四郎田橋	その他	羽山前・檜無線	12.56	2005	19	R5	I												1,000
南磯坂2号橋	その他	郡山・下道線	2.83	1985	39	R4	I												1,000
羽山前4号橋	その他	羽山前・沼ノ沢線	4.9	1985	39	R5	I												1,000
羽山前2号橋	その他	羽山前・沼ノ沢線	2.7	1985	39	R4	I												1,000
高田前橋	その他	鴻の草・田中線	2	1967	57	R4	I												1,000
宮渡橋	その他	宮渡・葉の木谷地線	4	1995	29	R5	I												1,000
東葉の木谷地橋	その他	松倉・大道線	2.7	1978	46	R5	I												1,000
掛下橋	その他	館腰・北関表線	2.4	2002	22	R5	I												1,000
東羽黒池橋	その他	羽黒沢線	2.6	1983	41	R5	I												1,000
羽山前3号橋	その他	谷沢町・羽山前線	2.72	1985	39	R5	I												1,000
北斗迫橋	その他	北・北斗迫線	2.8	1962	62	R4	I												1,000
上迫橋	その他	宮田前・北目線	3.15	1964	60	R4	I												1,000
双葉駅東西自由通路橋	その他	双葉駅東西自由通路線	23.1	2020	4	R5	I												1,000
寺沢橋	その他	唐沢・蛇喰線	39	2020	4	R5	I												1,000

←→ 伸縮装置:取替(始端側)等

←→ 地覆:打換等

凡例：←→ 対策を実施すべき時期を示す。

橋梁名	道路種別	路線名	橋長(m)	架設年度	供用年数	最新点検年次	最新点検結果	対策の内容・時期								合計(千円)				
								R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13		R14	R15		
愛宕下橋	その他	野竹内1号線	10.7	2020	4	R4	I					点検					点検		1,000	
根小屋橋	その他	館下・根小屋線	17.47	1963	61	R4	I					点検					点検		1,000	
石熊橋	その他	南八房平・石熊線	20.3	2023	1	R5	I											点検	1,000	
山崎2号橋	その他	北・北斗迫線	15.41	2000	24	R5	I											点検	1,000	
石熊3号橋	その他	南八房平・垢離取場線	13.25	2002	22	R5	I											点検	1,000	
原田橋	その他	原田・北目線	2.6	1965	59	R4	I					点検					点検		1,000	
西増田橋	その他	森合橋・宮ノ脇線	3.48	2023	1	R5	I											点検	1,000	
南観音堂橋																				
南蛭子堂橋																				
原田2号橋																				
町西橋																				
深谷跨線人道橋	(その他)	(深谷・こ線人道橋線)	168.3	1975	48	R4	IV	←	→										520,000	
合計 (千円)																				
								138,613	614,155	109,089	64,737	72,845	49,377	49,172	49,466	48,891	49,175			



■ :健全度E(5)    ■ :健全度B(2)  
■ :健全度D(4)    ■ :健全度A(1)  
■ :健全度C(3)

番号	橋梁名	諸元										重要度評価指標							総合評価指標				部材健全度		優先順位指標 (A+100-B)	優先順位	優先順位区分	管理区分	管理区分内訳										余寿命 (年)	今後50年補修費用		
		橋長 (m)	径間数	上部工 使用材料	上部工 構造形式	車道 幅員 (m)	竣工年	経過年	緊急 輸送路	道路 等級	緊急 輸送路	橋長	車道 幅員	道路 区分	バス 路線	交差 条件	重要度 合計 (A)	耐荷性	災害 抵抗性	走行 安全性	平均 (B)	部材種別	健全 度 ランク	緊急 輸送路					道路 区分	バス 路線	該当数	評価 ①	交差 条件 ②	評価 ②	橋長 5m未満	カルバー ト 特異形式	評価 ③	今後5年 (百万円)		残り (百万円)	合計 (百万円)	
0092	寺沢橋	39.00	1	鋼溶接橋	I桁(鋼床版)	5.00	2020	4	第1次確	その他	10	5	5	0	0	10	30	100.0	100.0	100.0	100.0	主部材	A(1)	30.0	86	経	S	○	-	-	1	B	○	S	-	-	B	-	0.5	13.0	13.5	
0043	愛宕下橋	10.70	1	PC橋	プレテン床版	7.00	2020	4	指定なし	その他	0	0	10	0	0	0	10	100.0	100.0	100.0	100.0	主部材	A(1)	10.0	87	経	A	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	0.5	4.5	5.0	
0075	根小屋橋	17.47	3	RC橋	RC床版橋(その他)	3.52	1963	61	指定なし	その他	0	5	5	0	0	0	10	100.0	100.0	100.0	100.0	主部材	A(1)	10.0	88	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	0.5	4.5	5.0	
0085	石熊橋	20.30	1	PC橋	プレテン中空床版	4.00	2023	1	指定なし	その他	0	5	5	0	0	0	10	100.0	100.0	100.0	100.0	主部材	A(1)	10.0	89	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	50以上	0.5	10.3	10.8	
0080	山崎2号橋	15.41	1	PC橋	PC 床版橋その他	2.00	2000	24	指定なし	その他	0	5	0	0	0	0	5	100.0	100.0	100.0	100.0	主部材	A(1)	5.0	90	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	36	0.5	4.0	4.5	
0059	石熊3号橋	13.25	1	PC橋	PC 床版橋その他	2.50	2002	22	指定なし	その他	0	0	0	0	0	0	0	100.0	100.0	100.0	100.0	主部材	A(1)	0.0	91	経	B	-	-	-	0	C	-	-	-	-	B	38	0.5	8.0	8.5	
0035	原田橋	2.60	1	RC橋	RC床版橋(その他)	3.00	1965	59	指定なし	その他	0	0	5	0	0	0	5	100.0	100.0	100.0	100.0	主部材	A(1)	5.0	92	経	C	-	-	-	0	C	-	-	○	-	C	50以上	0.5	4.5	5.0	
0096	西増田橋	3.48	1	RC橋	RC床版橋(BOXカルバー)	5.00	2023	1	指定なし	その他	0	0	5	0	0	0	5	100.0	100.0	100.0	100.0	床版	A(1)	5.0	93	経	C	-	-	-	0	C	-	-	○	○	C	50以上	0.5	4.0	4.5	
0010	南観音堂橋																																									
0036	南蛭子堂橋																																									
0058	原田2号橋																																									
0073	町西橋	16.60	1	鋼溶接橋	H形鋼(不明)	4.60																																				
0098	深谷跨線人道橋	168.30	10	鋼溶接橋	I桁(不明)	0.00	1975	48	第1次確	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	520.0	0.0	520.0			